

平成 6 年 6 月 7 日

送
り
先

MB (北陸) システム営業課 御中	丸善 (北陸) 営業課 御中	陸支 営業企画部	陸支 公共ビルシステム部
七宝 システム事業部 御中	NES 情報システム課 御中	(富山) 電力部	(金沢) 半導体・電子デバイス部
JMC 営業課 御中	北菱 情報機器課 御中	FAシステム部	FAシステム部
エム・アイ・エス 御中	MCC (北陸支所) 御中	公共ビルシステム部	電子・情報通信部
陸支 (富山) コ課			



陸支コ課 情報

N o 1 0

内容

- ・ 10号突破記念特集 Microsoft Windows 第一回
- ・ 新製品情報 カラーディスプレイモニタ
RD15DII RD17Y/V
RD21EIII XC-2930C
- ・ 情報誌トピックス — 情報誌は発行責任者保管
日経コンピュータ 5月30日号
日経パソコン 6月6日号
日経エレクトロニクス 6月6日号
日経バイト 6月号
日経オープンシステム 6月号

ソフトウェアはSRCへ！
キャンペーンも随時実施中
詳しくはSRCニュースを

発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社
電子・情報通信部 コンピュータ課
稲崎義明

(1 0 号突破記念特集)

M i c r o s o f t W i n d o w s

第 1 回

(W i n d o w s の歴史)

W i n d o w s の歴史は、25年前に当時 X E R O X 社にいたアラン・ケイの発表した「ダイナブック」構想と、モデルとして開発された「A L T O」に始まります。「ダイナブック」はキャラクタインターフェースの B A S I C パソコンしかない時代に、携帯型のグラフィックコンピュータであり、インターフェースとしてのマウス、アイコンなど現在の G U I (Graphical User Interface) の構成要素を全て備えています。(もちろん T 社のものは商品名で、直接の関係はありません)

この、「ダイナブック」の考え方を取り入れて商品化したのが、A P P L E 社の「L i s a」ですが、このパソコンは完成されたものでしたが、非常に高価であったため商品としては成功しませんでした。実際に使われるようになったのは、現在も販売されている「M a c i n t o s h」の発売以降のこととなります。

一方、W i n d o w s はだいぶ遅れて 1985 年によく W i n d o w s 1.0 が発売されましたが、実際には発売開始の予告から 1 年以上も遅れたばかりでなく、複数の W i n d o w s を表示する場合、タイル状に配置することしかできないなど、当時の主な C P U である 8086 のメモリ空間の制限に縛られたため、到底実用となるものではありませんでした。

そこで、その 2 年後に発売された W i n d o w s 2.0 からは E M S メモリによるメモリ空間の拡大、オーバーラップウィンドウのサポートなどにより、実用的な O S となりました。2.0 のバージョンアップ版である W i n d o w s 2.11 は M A X Y 用の D O S に標準添付されて長く販売していました。

その次に発売されたのが、W i n d o w s 3.0 です。286 保護モードサポート、仮想記憶のサポートなどにより、よりメモリ空間を拡大し、マルチタスク性能もアップしたもので、W i n d o w s の表示も、平面的であった 2.0 と比べて立体的になるなど、表面的には大きな変化がありました。しかし、当時のパソコンではハードウェアの性能がついていかず、日本では速度が遅いなどの問題点からあまり予想ほどは普及しませんでした。

そこで現在発売されている W i n d o w s 3.1 は C P U を 386 以上に限定することによるなどして、処理速度の向上、信頼性の向上、使い勝手の向上を図る一方で、マルチメディア機能への対応など、新機能の提供がなされています。

現在はこのほかに O S / 2 のプログラムを動作可能で、マルチタスク機能、L A N への標準対応などがなされた W i n d o w s N T が販売されています。一方、W i n d o w s 3.1 も完全に D O S から独立した O S となる W i n d o w s 4.0 (C h i c a g o) が現在開発されています。

W i n d o w s は、徐々に D O S を使わず直接ディスプレイやプリンタなどのリソースを管理するようになり、独立したものとなってきていますが、一方、W i n d o w s N T、W i n d o w s N T Advanced Server、W i n d o w s f o r W o r k g r o u p s など使用目的によって分化してきています。

(新製品情報)

新形カラーディスプレイモニター4種発売

・15形 RD15DII 99,800

(メニュー画面コントロール)

簡単操作で快適画面に調整できる一オンスクリーンディスプレイ
モニターの調整を画面上に表示しながら簡単にできます。

調整は、フロントコントロールパネル内の2つのキーだけで操作できます。

(ワンタッチ画面調整)

Windowsを最適画面サイズに一オートキャリブレーション

モニター側で画面幅、画面位置などの調整を、ワンボタンで自動調整することが
できます。

(ワイドレンジオートトラッキング)

DOS/V、APPLE、98シリーズに自動対応

水平周波数24/30~65kHzまで対応できるワイドレンジ、オートトラ
ッキング機能を装備しています。

(パワーマネジメント機能)

画面を使わないとき省エネできる

使わないときに消費電力をカットすることをパソコン側からコントロールで
きるパワーマネジメント機能を搭載しています。

(低反射帯電防止コーティング)

反射を抑えた、目にやさしい鮮明画面

光の干渉効果により外光反射を抑え、コントラスト比を高めるコーティング
を新たに採用しました。

(自己診断機能)

入力エラーを画面上でお知らせする

パソコン同期信号の未入力状態を画面表示で伝える自己診断機能を搭載して
います。

・17形 RD17Y/V 170,000

(シリアルコントロール)

マウスで画面調整ができる

オプションのソフトウェアで画面位置の調節や調整幅などを画面を見ながら
キーボードやマウスで簡単に調整できます。

(軽量コンパクト17形)

軽くてコンパクトな省スペース設計

場所をとらないコンパクトで軽量設計がなされています。

(自己診断機能)

入力エラーを画面上でお知らせする

パソコン同期信号の未入力状態を画面表示で伝える自己診断機能を搭載して
います。

(パワーマネージメント機能)

画面を使わないとき省エネできる

使わないときに消費電力をカットすることをパソコン側からコントロールできるパワーマネージメント機能を搭載しています。

(フロントコントロールパネル)

画面ローテーション機能で色ムラも補正

地磁気による画面の傾きを補正する、画面ローテーション機能を搭載しています。

(低反射帯電防止コーティング)

反射を抑えた、目にやさしい鮮明画面

光の干渉効果により外光反射を抑え、コントラスト比を高めるコーティングを新たに採用しました。

(高性能17形フラットスクエアCRT)

Windowsにも最適なワイド画面

画面をより平面に近づけたフラットスクエアCRTを搭載しています。

(ワイドレンジオートトラッキング)

パソコンからWSまで自動対応

水平周波数30～79kHzまで対応できるワイドレンジ、オートトラッキング機能を装備しています。

15形、17形以外にも、同時に次の21形、29形を発売しました。

21形 **R D 2 1 E III 4 2 0 , 0 0 0**

(低反射帯電防止コーティング)

(高密度ピッチ0.28mm)

(高性能21形フラットスクエアCRT)

(ワイドレンジオートトラッキング)

(新マイコン入力センサ)

(フロントコントロールパネル)

29形 **X C - 2 9 3 0 C 8 0 0 , 0 0 0**

(マルチメディア時代にふさわしい超ワイドレンジ)

(ダイナミックレンジの広い動画でも明るい大画面)

(ビデオ信号2系統、アナログ信号RGB2系統のマルチ入力)

(情報誌トピックス)

○日経コンピュータ 5月30日号

特集 オブジェクトの先を行くエージェントの時代へ

分散システムの壁を打ち破る新パラダイム

→オブジェクト指向は一人の人が複数の「物」を使うという考え方をコンピュータの中に入れたもので、エージェントは複数の「人」が強調しながら処理を実行するという形態をコンピュータで表現したもの

→エージェントはLANでつながった複数のコンピュータの間を常に動きまわり処理を行う

動向 クライアント／サーバ実践に向けて

重要性増す性能問題の解決策

→業務システムとして十分な性能を発揮できるかの問題に対していろいろなアプローチが始まっている

動向 Windows NTの成否を握るソリューションプロバイダ

→システム会社を組織化するマイクロソフト

三菱電機はSIをサービスとして提供する企業として登録

コンピュータアイ VR (バーチャルリアリティ) を活用して交通事故を減らそう

焦点を聞く 双方向CATVは2000年まで赤字

伊藤忠商事マルチメディア事業部長

海外最新情報 軽視されるシステム管理者

経営陣は重要性を認識せよ

→C/Sシステムではシステム管理者が重要だが、安易に削減して失敗する企業が多い

○日経コンピュータ 6月6日号

特集 大容量ハードディスクのトラブル防止法

失敗しないための4ポイント

→apricot XEN-LS IIでも540MBといった大容量のHDDを内蔵したものがあります。しかし大容量であるがゆえに出てくる問題もあります。

プロローグ 大容量HDDの時代が到来

ポイント1 ディスクの中を整理整頓する

要らないファイルは捨てよう

ポイント2 パーティションをうまく切る

3領域に分けるのがベター

ポイント3 ユーティリティで快適に

フリーソフトも活用しよう

ポイント4 バックアップ用機器を揃える

MOかもう1台のHDDを

- レポート デジタル携帯電話で挑戦
モバイルパソコン通信
→ノートパソコンを使い東京都内で使用状況を実験
新文字コード、「Unicode」がやってくる
- NEWS 三菱電機ディスプレイ4種を発売15インチは1万円値下げ
Wordに組み込めるWindows用翻訳支援ソフト—沖ソフトウェア
漢方薬局向け製剤記録作成システム—クレオ
米マイクロソフト社がChicagoの全容を公開
日本アイビーエム、今夏までに「OS/2 for Windows」を発売

○直経エレクトロニクス 6月6日号

- 特集 PCIバスが入出力バスの新たな業界標準へ
→PCIバスを採用するパソコン(PC98を含めて)やUNIXワークステーションが増え、事実上の業界標準になりつつある
クロック周波数が33MHzと高く、実装には制約が多い

- 1部 PCIバスをめぐる動き
パソコンやワークステーションで採用相次ぐ、
高速なグラフィックスとHDDを生かす
- 2部 ハードウェア設計
バス構成は3階層に、実装には伝送線路解析が必要
- 3部 LSIの製品サーベイ
デスクトップ機向けが先行、ノートパソコン用は来年に

- 特集 AV機器の海外生産、現地で設計も
→海外生産移転先で、その地域向けの回路変更ができるような設計手法を模索し、設計作業の移転が目的

- 1部 設計移管の理由
新規開発品に国内の設計者を集中したい
- 2部 技術による解決策
海外へ移管しやすい設計手法を確立

技術

- 分散データベース 非同期更新技術が分散連携の中心に
- ユーザインターフェース 操作性の問題を検出するツールを開発
→操作履歴を分析して、使い勝手の悪い点を検出するツールを開発
- CAD 論理合成を補完するHDLライブラリ
→三菱電機がHDLライブラリを用意し、ASICユーザに提供

○直経エレクトロニクス 6月号

- 特集 体感とギャップの広がるベンチマークテスト
→DOS/V機を中心とした性能比較にベンチマークテストがよく用いられるが、テストの内容によって異なる結果を出し、万能ではない

第1部 テストの目的

ベンチマーク結果がユーザの体感と食い違う

→ベンチマークテストは性能を比較するのには重要だが盲信はできない
体感で「遅さ」の要因を突き止めるためのテストが望まれる

第2部 テストの具体的内容

個々のテストは何を測っているか

→各ベンチマークテストがどのような特徴があるか見極めが必要

解説 サービス主導で家庭を“情報ハイウェイ”につなぐ

メディアへ変貌するパソコン、通信基盤整備が進む

→米国で進むスーパーハイウェイ構想

中心となる技術的なソフトウェアモデルと目されているInternet

プロフェッショナル Windows ヘルプシステムの自作の勧め

○経済システム 6月号

特集 基幹システム設計

データ、処理、改選、管理の最適分散に挑む

→基幹業務の分散化にC/Sを採用するユーザが増えてきている
ユーザやS Iは最適な分散システム設計に挑みはじめている

I部 広域に広がるC/S

データ、処理、改選、管理の最適分散へ、模索始まる

→新しい基幹システムを模索するユーザを紹介

II部 分散システム設計

定量的なデータ分析で分散処理の弱点を回避する

→ユーザやS Iのデータ分析によるシステム設計を再現

III部 求められるSE像

教科書なき時代、SE能力がシステムの価値を左右する

→S Iにはユーザの要求を聞き取る力、DB、ネットワーク、運用管理
に関する知識などの総合力が改めて問われる

オープンフロント ワークフロー管理ツール

オフィス業務システム化の支援ツールが上陸

→ワークフロー管理ツールは、オフィス内の文書回覧業務を支援する
ツール

オープンサーバイ 高速モデム

高速・低価格化が進む、1.44k超へ方式乱立

オープンセミナー Access BasicとNetWare SQLで

トランザクション管理を実現する

3機能分散モデルを利用してC/S業務システムを設計する

オープンレポート 岩手医科大学、Visual Basicのソフト部品（カスタムコントロールなど）を活用した経理システムを導入